

札幌学院大学バリアフリー委員会 バリアフリー通信

第5号



☆手話合宿☆

8月12日と13日の二日間、今年も例年と同様に、手話のレベルアップと参加者の交流のために定山溪ホテルミリオーネで手話合宿がありました。参加者は去年とほぼ変わらず、45人でした。



手話合宿大復習会

ホテルに着いてからまず始めに手話の大復習会を行いました。

8人程度のグループに分かれ、手話合宿のしおりを使用し前期の手話勉強会で学んだ様々な手話を表現しました。例えば「私の出身地は北海道の旭川という寒いところです。あなたは？」や「冬はスキーとスケートが得意です。夏は海で釣りをすることです。」などの文に沿ってグループごとに復習を行いました。各自で復習をするグループや、皆で一緒に復習するグループなどがあり、それぞれが様々な方法で手話を復習していきました。

(文責 酒井紫織)



手話カルタ



大復習会の一環として「手話カルタ」を行いました。ルールは、カルタの読み手が声なしで手話単語を表現します。カルタの札には単語の文字と手話表現の絵が描かれており、読み手の手話を見てカルタの札を取るゲームです。参加者は、身乗り出してカルタを取りに行ったり、何人かで取り合いになっている光景が何度も見られ、楽しんでいる様子でした。

(文責 鈴木彩佳)

みんなでしゃべり場 in 手話合宿

大復習会の次に、みんなでしゃべり場を行いました。6つのグループに分かれ「自分と聴覚障害」というテーマで話し合いをしました。

各グループには、新会員から4年目までの会員がいたため、新しい視点を見つけ、自分を振り返るきっかけになっていたようです。30分間程の短い時間でしたが、真剣な表情の中にも楽しさが見られ、有意義な話し合いとなったようです。

(文責 澤田晴恵)



企画1日目夜

ジェスチャーでやって♡



手話合宿1つ目の企画は「ジェスチャーでやって♡」でした。ルールは、まず6つのグループに分かれます。参加者の名前が書かれたくじを引き、くじに当たった2名は前に出て、ボックスの中からお題を引きます。その後30秒間、引いたお題をジェスチャーで行います。その時、手話を使ってしまうと減点されてしまいます。ジェスチャーが終わった後、グループごとに正解を話し合い、答えるというものです。正解したグループには担当者が引いたくじに書いてある数字がそのまま点数として入り、ジェスチャーを行った人にも

「お疲れ様ポイント」としてくじの点数の1割加算されます。

ジェスチャーで表現する人も答える人も難問に苦戦しつつも、企画を楽しんでいるようでした。(文責 山口順也)

サインタワー

2つ目の企画は「サインタワー」で、引き続き同じグループで行いました。これはネプリーグの企画である「ブレインタワー」がモチーフになっています。ルールは初めにグループ内で答える順番を決めて、お題を制限時間内に手話と指文字で答えていくゲームです。レベル1からスタートし正解するごとにレベルが上がっていきます。レベル1を正解すると10点で、レベルが上がるごとに10点ずつ増えていきます。さらにレベル10クリアでボーナス点の30点がもらえます。

お題は簡単なものから、地名など難しいものまであり、苦戦しながらも皆盛り上がり楽しんでいました。

(文責 村中咲和)



手話コーラス・手話劇

手話合宿の最終イベントとして恒例の手話コーラスと手話劇が行われました。

手話コーラスでは、スピッツの「チェリー」とZONEの「secret base～君がくれたもの～」が披露され、手話劇では「不思議の国のアリス」が公演されました。

短い練習時間の中で、できる限り良いものを作ろうと様々な工夫が行われました。歌の世界観を手話で豊かに表現して伝えるという方法や、手話を使うと同時に演技をすることの難しさを学ぶ機会となりました。

最後は手話劇の参加者らによる土下座によって幕を閉じました。

(文責 福井浩晃)



♡ I Love BF ♡



今回の「I Love バリアフリー委員会」は、初めて手話合宿に参加した人を代表して畠山聖里奈さん（人文学部1年）、高橋真希さん（人文学部1年）、清水愛理さん（人文学部1年）の3名に集まっていただき、お話を伺いました。

Q：手話合宿に参加しようと思った理由を教えてください。

畠山：私が手話合宿に行こうと思った理由は、部室で飯塚さんに「とても楽しいので来てみたらどうだい？」と誘われ、学習部にも誘われたのがきっかけです。

高橋：参加した理由は先輩が劇などもやって楽しかった、といていたので、参加してみたいな、と思ったからです。

清水：私は手話をちょっとでも覚えようと思ったのと、1泊2日ということで、皆と交流がたくさん出来るかと思ったので、参加しました。



Q：この手話合宿に参加して楽しかったことは？

畠山：手話劇が一番楽しかったのですが、夜に皆さんとおしゃべりができて、しゃべったことのない3、4年生とお話しする機会がたくさんあったので、それが一番嬉しかったです。

高橋：ジェスチャーゲームと手話コーラスが、初めてやったのでとても緊張したけどとても楽しかったです。

清水：企画、1日目の企画も楽しかったし、夜に先輩方とやったトランプとかも楽しかったし、1年生の子と朝までしゃべったのも楽しかったです。

Q：手話合宿に参加して、得たものや出来るようになったことなどはありますか？

畠山：得たものは、先輩方との交友がうまれたと思います。大森さんとか、なかなかしゃべったことない人がとてもしゃべりかけてくれたので、ちょっと仲良くなれたと思いました。

高橋：得たものは…手話の企画で会議とかを何回もやって頑張っってよいものにできたことです。それにより、先輩との交流も出来て、よかったです。あと、手話コーラスで手話を、感情的にやることの大切さを学べてよかったです。

清水：得られたのものは、企画とかで手話を練習して、今もちゃんと覚えていられましたし、手話コーラスなどでは全然手話が出来なかったの、さらにこれから頑張ろうという気持ち芽生えました。

Q：最後に、これから頑張りたいことは？

畠山：これからは、手話講習会などで、企画の担当のローテーションにも1年生が入り、自分も一杯覚えたいし、今までと違う面白い企画も考えて、皆さんに楽しんでもらいたいと思います。

《《拍手》》

高橋：自分は、手話がまだまだ覚えられないので、もし…もしじゃない。2年生になって、今の先輩達のように、教えることができる立場になれるように、がんばって手話を覚えたいです。

《《拍手》》

清水：日常的に手話を使えるようになるのが今後の目標で、勉強会とかで先輩達ばかりにたよらず、自分で出来ることはやりたいです。

《《拍手》》

藤田：ありがとうございます。お疲れ様でした。



～逆インタビュー～

Q：どうして2年生からバリアフリー委員会に入ろうと思ったんですか？

藤田：2年生になってから入った理由は、1年生の時から興味があったんですけど、なかなか手が出せなくて。2年生になって新学期が始まり、ちょっと落ち着いてきたので、ちょうど良い頃に、今テイク統括部の部長さんが、テイカーにと誘われ。そこから私のBF人生が始まりました。

Q：2年生から始めたのにどうしてそんなに手話を覚えているんですか？

藤田：自分がそんなに出来ているとは思わないけど、やっぱりいつも手話を使って話すということをやったら、その、常に思い出したり表現したりするから、覚えるんじゃないかと思います。

(取材：藤田和真 記録：小林舞子 撮影：山口順也)



バリアフリー委員会設立10周年企画

9月25日(土)午後1時より、バリアフリー委員会設立10周年企画が行なわれました。



詳しくはバリアフリー速報で！！

☆編集後記☆

- 福井浩晃：久しぶりに記事を書いたのでいつも以上に達成感を感じました。
- 山本由貴：見守り役しました。あーだこーだ言ってただけだけどね！楽しかった(・▽・)
- 長尾晟和：推敲よりA君が気になって仕方なかったです！！
- 澤田晴恵：編集を今回は見守っていました☆2年前を思い出し、成長を実感！！笑
- 阿部直也：久しぶりに編集をしました♪推敲よりも編集の方が楽しい～♪★
- 兜いずみ：今回はサポート役でした☆みんな楽しく頑張ったよ(・▽・*)
- 藤田和真：手話合宿もりだくさんで編集楽しかったです！
- 小林舞子：いつも以上に熱い推敲ごちそうさまでした！
- 渋谷大介：手話合宿かぁ…楽しそうだなぁ(・A・)
- 山口順也：初めての編集でした。初めて写真撮りました。取材の時とか色々楽しかったです。